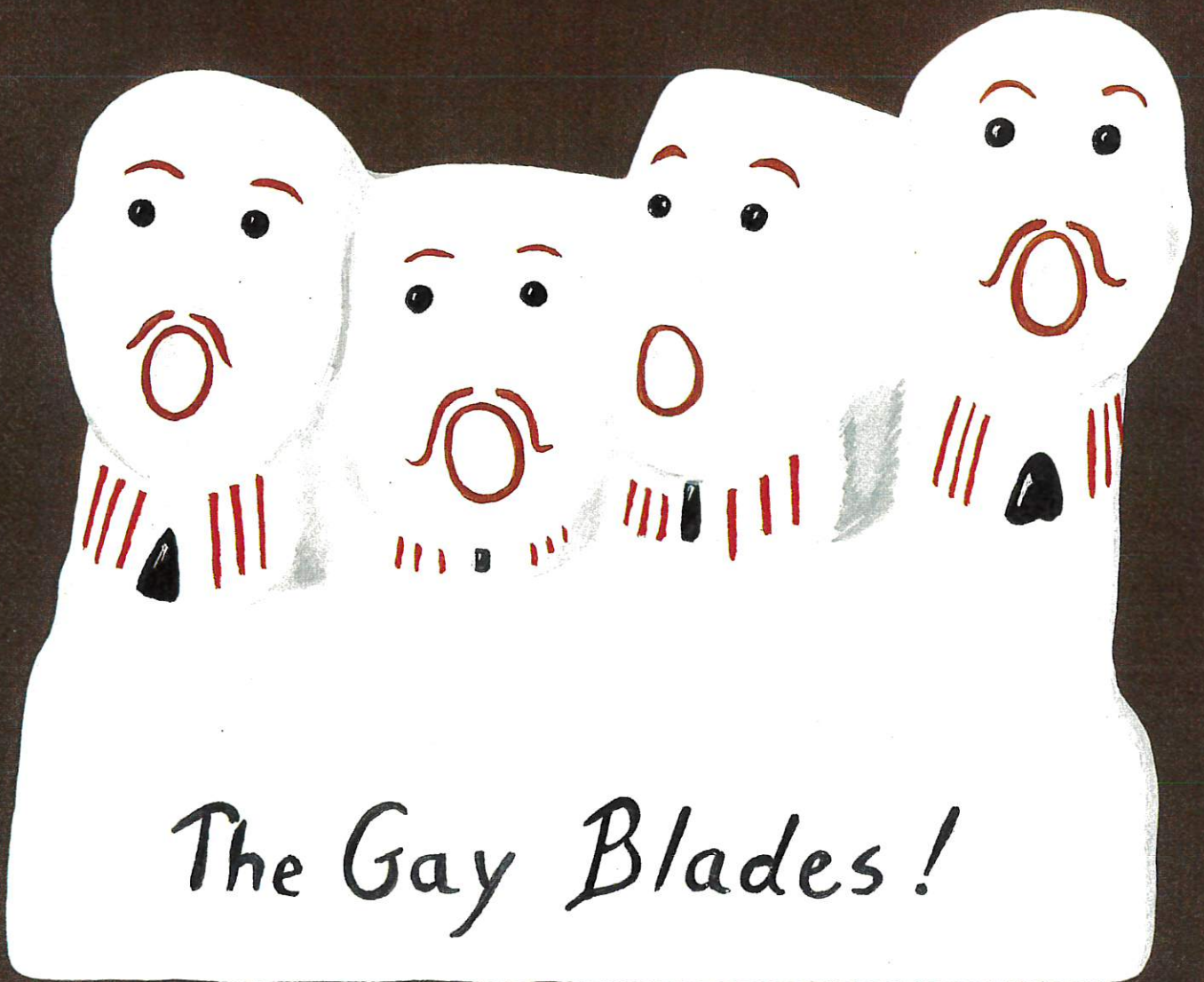


週刊文春

6月10日号 定価 440円



The Gay Blades!

寄稿



独立行政法人
国立病院機構
奈良医療センター 院長
日本定位・機能神経外科学会
副理事長

平林 秀裕

「人前で震えて字が書けない」など意に反して勝手に体が動いてしまうことを不随意運動といい、振戦、舞踏様運動、ジストニア、アテトーゼ、バリスム、ミオクローヌス、チックなどに分類されます。振戦には「安静時振戦」「姿勢時振戦」「運動時振戦」などがあり、特に多いのは姿勢時振戦である本態性振戦とパーキンソン病でみられる安静時振戦です。本態性振戦は震え以外に症状がなく、主に両手が震える病気で、日常生活に支

格段に安全性が増した
集束超音波治療

本態性振戦、 パーキンソン病の診断と治療

手や足、頭が勝手に震えませんか？

障がある場合にアロチノロールなどの薬物療法が行われます。パーキンソン病は中脳黒質の神経細胞の中にαシヌクレインが凝集したレビー小体が形成されて、細胞が変性し、線条体のドパミンが枯渇して、安静時振戦、無動、寡動、筋強剛、姿勢反射障害などの運動症状や自律神経症状、感覚症状、精神症状などの多彩な非運動症状を呈する疾患です。L-Dopa製剤、アゴニスト、MAOB阻害薬などの薬物療法が行われます。薬物が無効な不随意運動でも高周波凝固術や脳深部刺激療法などの外科手術で劇的に治せることがあります。最近、頭をきらないで、震えを治す集束超音波治療(FUS)が発明されました。FUSは照射中にターゲットの温度をモニターできるので、高周波凝固療法に比して各段に安全性が向上しました。



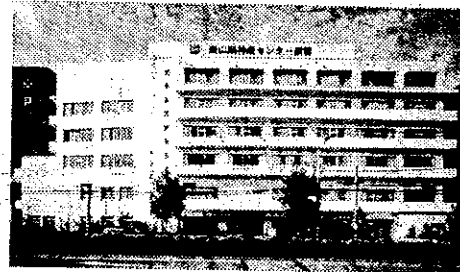
社会医療法人社団森山医会

森山脳神経センター病院 FUSセンター

東京都 江戸川区

都内初。MRIガイド下集束超音波(MRI-FUS)治療器を導入

- MRIと超音波を組み合わせた、メスを使わない外科的治療法
- MRIで正確な治療部位や温度を確認しながら、1024個の超音波発生。素子が装着された治療用ヘルメットで、ピンポイントの治療
- 本態性振戦・パーキンソン病による手のふるえなどの症状を軽減するための機能疾患治療機器



森山脳神経センター病院
病院長、FUSセンター長
堀 智勝
日本神経外科学会認定
脳神経外科専門医

東京で初めて、保険診療で難治性本態性振戦による手のふるえやパーキンソン病の運動症状などを軽減するMRIガイド下集束超音波治療器が当院に導入されました。この機器はメスを使わず、超音波で脳深部の治療を温度を見ながら局麻下で行います。現在までに保険外で視床下部過誤腫などの難治性てんかん、ジストニア、パーキンソン病、疼痛などを治療して有効性が得られています(全剃毛は必要)。

御連絡・予約：FUSコーディネーター
TEL.03-3675-1210(直通)

〒134-0088 東京都江戸川区西葛西7-12-7
TEL.03-3675-1211
東京メトロ東西線 西葛西駅より徒歩5分

MRI-FUS 外来：月曜日(受付8:15~11:30)
担当医(脳神経外科：堀、脳神経内科：渋谷)
<https://mr.moriyamaikai.or.jp>



医療新聞DIGITALで
更に詳しい病院情報
が見られます